

「困りますね。ご近所の方が路地に人が入ってこんようとうせんぼして言いはりますねん」そんな話を聞いたのは、まちアートが開かれ、空堀が注目を集めた頃でした。

即座にからほり新聞の発行を思いました。当会は空堀に住んでいない空堀に遊びに来てい

時々店にお邪魔していた時「困りますね。ご近所の方が路地に人が入ってこんようとうせんぼして言いはりますねん」そんな話を聞いたのは、まちアートが開かれ、空堀が注目を集めた頃でした。

悩みは資金不足で空堀新聞を赤字発行していることです。続けて行けるように、広告を取り赤字をなくしたいと思うのです

空堀に高齢者外出介助の会が引越してきたのは2000年でした。

そしてNPO法人にしようとして2003年4月には特定非営利活動法人として登記しました。そして、空堀の方にも会の活動を知ってほしいと当時の東側の商店街会長の白石さんをお願いし理事として参加の快諾をいただきました。

始めたころ新聞を置いてほしいとお願ひに上がると、胡散臭い団体の新聞だと思われ断られたり、有料か聞かれたりで苦戦しました。最近を知ってくださる方が増え、時に置きたいと連絡が入ったり、配っていると面白。楽しみにしてる」声を掛けてくださる方もあり励まされています。



永井佳子

空堀新聞発行41回

からほり新聞

第41号
(2017.8.11)

「空堀界隈を散策される皆様へ」

- ◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
- ◆美しい石畳や木造家屋にゴミは合いません。
- ◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。

がそう簡単に集まりません。力不足はいなめません。もう一点は空堀を楽しんでほしいと情報を集めますので、当会の情報をあまり掲載できないで、会の台所状況は読者に伝わりません。

こんな弱い財政状態ながら当会は発足より23年、空堀で17年が過ぎました。ここで会の目標を書いて終わりにしたいと思えます。

空堀の西側で、地域に開いたサロンで来られる方は高齢者で一人暮らしのかたが多く、ここで聞くのは一人で暮らすのに限界を感じた後の身の処し方です。わたしはもともと、自宅です。最後まで暮らしてほしいと外出活動という支援を思い立ちました。今の願ひは、病気になるたとき安心して休める場がほしい。中央区には立派な病院がたらくさんあり、入院すると、足腰

(高齢者外出介助の会)

お年寄りの皆さんが、住み慣れた町で楽しく充実した暮らしが続けられることを願って、支援活動や暮らしの潤いになる様々な企画を推進しています。

- 高齢者外出介助の会 ☎06-6764-4002
 - ◆みんなで集う秋のコンサート▶10月15日(日)▶13:30~▶歌:檀之上美穂▶中央会館▶特別出演:谷町キッズポップフィルハーモニー楽団
 - ◆てるてるクラブ▶9月9日(土)13:00~▶「感わされないで!していい体操、しなくてもいい体操」▶講師:野尻茂樹
- 大阪市立島之内図書館 ☎06-6211-3645
 - ▶8月いっぱい月曜日開館しています。8月は17日(木)のみお休み致します。
- 桃園会館▶☎06-6762-5599▶納涼ビアガーデン▶8月26日(土)18:00~21:00
- 桃谷会館▶☎06-4304-2266▶ふれあい喫茶▶8月9日(水)14:00~

お買い物は空堀商店街で

特定非営利活動法人

高齢者外出介助の会とは?

お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただくため次のような活動をしています。

- ①外出介助(買い物、お墓参り、通院など)
- ②暮らしサポーター(買い物、薬取り、入院時支援など)
- ③車椅子貸し出し(お気軽にご利用下さい)
- ④生きがい作り講座(童謡・唱歌を歌う会、布ぞうりなど)
- ⑤ハーモニカ教室
- ⑥「からほり新聞」制作

お気軽にお問い合わせください。

大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階
TEL&FAX 06-6764-4002
月~金(10:30~15:00)
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp
ホームページ: odekake-karahori.com

会のお知らせ

- 井戸端会▶☎06-6764-4002▶8月26日▶ロマン城下町かいばら&丹波篠山ほろよい城下蔵見学▶出発8時30分▶参加費5,000円
- 日向ぼっこレッスン▶8月26日(土)▶「大人の書道・篆刻」▶参加費1,700円(お手本・ケーキセット込)▶持ち物 使いたい筆ペン・ボールペンあれば持参▶お申し込み・お問合せhinatabocco☎06-6768-1882(営業日の10時半~19時まで)
- からほり悠 ☎06-6765-1566
 - ▶8月22日(火)18:00~20:00▶茶道体験見学
 - ▶8月26日(土)12:00~15:00▶郷土料理から学ばイタリア料理のおいしさとコツ
- 隆祥館書店 ☎06-6768-1023
 - ▶8月17日(木)19:00~21:00▶名越康文さんによるトークライブ

☆編集後記

◆今年の梅雨は大阪ではほとんど空梅雨でしたが、各地で豪雨災害が!被災された方々へお見舞いを。(や)

◆6月が7月に、7月が8月になりやっと発行です。いつもながら遅れてしまいました。今回は少し泣き言を並べてしまいました。23年過ぎてても今も変わらず弱い

◆財政。何とかならないものか。(ケラ子)

◆今度3女を連れて島根取材です。託児付き少し時代が変わりつつあります。(岡田)

◆今年も市内の盆踊りを10箇所ぐらいまわる予定!元気でパワフルな町会の人たちに出会えるのが楽しみです(^)(のぶ)

「からほりサロン」休みのお知らせ

8月10日~20日お休みいたします。

高齢者外出介助の会 ☎06-6764-4002にお願いします。

“誰”かと話したいかたお待ちしています。

てるてるくらぶ(認知症カフェ)

13:30~15:00 毎月第2土曜日
参加:茶菓代(200円)

☎06-6764-4002(9時~17時)



今回の空堀人は一般社団法人
マインドヘルス協会の飯田真弓
さん。産業カウンセラーで日本
芸術療法学会正会員の飯田さん
はあらゆる人の心の健康をサポ
ートします。

飯田さんは国税調査官として
勤務する中、放送大学で心理学
を学び、その後、芸術療法と出
会いました。税務調査という仕
事を通じて、経営者も調査官た
ちも人生に進路を見出せなかつ
たり、人間関係でお互いの気持
ちや考えを通じ合わせなかつた
りと悩みを抱えていることに気
づきました。

芸術療法はそういった人たち
の心を健康にし、コミュニケーション
を円滑にするサポートが
できます。

「最初はボランティアで、切
り貼りするだけで人のところが
癒されるカラーージュを実施して
たんです。けれども、続けてい
くうちに社会にとっても必要なこ
とだと思っただけです。子ども大

自殺願望の方が婚活開始

快傑！からほり人

快傑ファイル其の三十一

一般社団法人マインドヘルス協会

飯田真弓さん

きくなったのをきっかけに20
08年に退職して独立しました。
社団法人にしたのは一般の人だ
けでなく、企業や社会人たちへ
のサポートの幅を広げたいとい
う思いがあったから」と飯田さ
ん。



飯田さんがサポートした中で
特に印象的だった事例は、とあ
る企業の社長が連れて来られた
自殺願望もつAさんです。仕事
が忙しすぎて自分の道筋が分か
らなくなったというAさん。い
らなくなった雑誌を切り貼りし
ながら、少しずつ心を解きほぐ
していきました。すると突然、
Aさんは「僕！婚活します！」
と言って目を輝かせて帰って行
ったそうです。その後、直筆で
お礼の手紙をもらい、新しい夢
を持つて活き活きと歩みだした
Aさん。「私はAさんの気づきに
寄り添っていただけ。でも、
Aさんが生きる勇気を取り戻さ
れたことはとても嬉しく、もつ
と多くの人をサポートしたいと
思いました」と飯田さん。

その後、小学校やマンショ

ンの共有スペースなど、依頼が
あればどこにでも出かけてニ
ズに合わせてサポート。今年9
月からは、子育て中のママをサ
ポートする講座も始められます。
そんな飯田さん自身はいろい
ろな人からパワーをもらって
いるせいかもしれませんが、気さ
くな方。仕事をつづけながら二
人のお子さんを育てたスーパ
ーマンです。

飯田さんの事務所は新谷町第
3ビルの3階。日当たりが良く、
開放感のある空間でいつでも、
悩んでいる方を迎えてくれます。
(岡田由佳子)

一般社団法人

日本マインドヘルス協会

住所：中央区谷町7-3-14

新谷町第3ビル310号

【イベント告知】9月5日(火)

より毎月第1火曜、10時30分

11時30分▶ぐるぐるコミュニケー

ション▶大人1,000円、子ど

も(小学生以下)500円▶13時

▶16時▶エコロジージュ@ワークシ

ョップお一人様3,240円▶

mail:info@jamha.org▶

URL:http://www.jamha.org

久実家

大阪市中央区谷町6-2-18 ☎06-6762-9318

営業時間：17時～23時 定休日：月曜日

実家に帰ったようなくつろぎを感じてほしいと店の名前にしま
した。

はじめから空堀商店街を考えないでちょっと入ったところがいい
とこにして30年になった。その時そろえたビールのコップが
少なくなってきたので今はもっぱら女性用として使っている。
もともと、小さな時からお弁当を作り料理をするのは好きなんで
しょうね、ご自分評。

出会った時の雰囲気は私は気に入って、失礼な言い方を承知
で可愛いママさんです。



橋の湯食堂

大阪市中央区谷町6-5-20 ☎06-6777-9468

営業時間：11時～15時 18時～23時 定休日：水曜日

名前の由来は、近くにあった古い銭湯がマンション建て替えて
無くなったのと橋本さんを加えて「橋の湯」に。

子供のころは野球選手になりたかった。20代、バンドマンの
傍ら西区でイタリア風食堂など、数々の飲食店でお世話になりま
した。ここは和風中心のお店。できる限り、体に安全、安心の
食材を使っていますので、優しい味付けになっています。一人で
切り盛りするつもりでビールはセルフでお願いします。



ごはんとコーヒーnim.

大阪市中央区谷町6-17-4

営業時間：月、金、土 9時～21時

火、水 9時～17時

定休日：日曜日、木曜日

店名の由来は、二人の味・・・2人味 ニミより聞こえがいいと
ニムになったそうです。

いつ来てもご飯が食べられるとしたいと店の前に提灯は
ごはんと書かれています。

飲食関係に二人で働いていたのが楽しかったのと、タイミング
で「今しないとやらない」と思って二人が出し合って始めました。
二人の趣味や考えが似ていて店の内装などもお互いの意見だけ
どすんなりとできた。

将来は谷六と言えば nim と言われるように頑張りたい。



中国の青島(チンタオ)で迎えた終戦

〔松岡陽子さん 昭和5年生〕

私は父の仕事の関係で、中国、山東省の青島(チンタオ)で生まれ、終戦の年(女学校三年生)までそこで過ごしました。チンタオはドイツのモデル植民地として街並みもドイツ風、オレンジ色の屋根瓦に石造りの家々、街路樹、上下水道も完備され、軍港もある、東海岸の中心都市でした。第一次世界大戦で日本がチンタオを占領、(後に中国に返還)日本人が大勢住んでいました。神戸に似て山が海に迫っており、港からは大きな商店街が続いています。父はそこで日本人対象の洋服や洋品雑貨の店を経営。お隣は中国人の宝石店、反対隣は日本人経営の喫茶店。そして終戦まで爆撃など受けずに過ごしていました。

戦況のニュースで日本兵の玉砕が伝えられ始めた頃、私達も学徒動員で「手榴弾」の制作に携わりました。工場に通う道は海岸沿いで、2列に並んで黙々と歩きました。そして自分達もいずれば戦闘員になり玉砕もあり得るな、と覚悟していました。

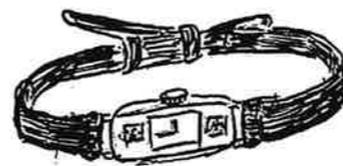
終戦になり、青島市に最初に上陸してきたのはロシア兵。ソ連が不戦条約を破って参戦したのを知ったときの悔しさは何時までも心から消えませんでした。

日本への引き上げの順番を待っている、日本の人達が日本に持ち帰れない品物を買ひ取ってくれると持ち込みはじめ、ロシア兵やアメリカ兵は帰還時のおみやげ用にそれら(着物やかるた等)を買いに来るのです。ところが全部中国の紙幣なので日本へは持ち帰れず、唯忙しいだけの毎日でした。

12月22日、やっと帰還の順番が来ました。持ち帰れるお金は日本円で一人につき千円だけ。家族六人分(父母、叔母、弟二人、私)のお金と下着1枚、等決められた物を、リュックサック一つに詰めて港へ行き、大型(甲板は飛行機が発着できる)の米軍の上陸用舟艇に乗るのです。乗船の時棧橋で、女性に対しては中国の女兵士がついて頭のテッペンから足の先まで調べ、高い宝石などは取り上げて自分のポケットにしまいます。母、叔母の腕時計や指輪も没収でした。ところがまだ15歳で制服姿だった私の腕時計(ロンジン)は「高価なものを持つ筈が無い」と思ったのか没収されませんでした。私にとっては唯一の思い出の宝物、87歳の今も大切にしております。

3日がかりで鹿児島島の櫻島に着。父の家は大阪中央区でした。が全焼しており、天理市に近い母の実家に身を寄せ、私は天理女学校に転校して残りの学業を終えました。当時の私は、早く就職して、少しでも二人の弟を上りの学校に行かせる力になりたいとの思いで一杯でした。幸運にも北浜の配給公団関西支社に就職でき、住まいもその近くに移動して、土、日曜日だけは毎週奈良に帰りました。途中上六の近鉄百貨店(旧大軌百貨店)で弟達の為に必ず牛肉を買うのが楽しみだった事を思い出します。

この年になっても当時のことは忘れられず、多くの文化を破壊し、多くの犠牲者を出す戦争は決して起こしてはならない、との強い思いを今も持ち続けております。



ダイア (ロンジン製)



ケラ子の介助日記

エスカレータの

事故のこと

高齢者外出介助の会
事務局長 永井佳子

新聞にエスカレータの事故が取り上げられ、一方で飛行機の搭乗でトラブルがあり自力で階段を上った絵まで掲載されました。

どちらも、人との関わりと思うのです。悲しいことにどちらも、当事者にあまり温かな目が向けられていません。

車いすを押していたお爺さんや、階段を腕で登った方を非難する投稿を見ました。

ちよっと待ってと私は思います。エスカレータの事故ではお爺さんが車いすを取りに行き、奥さんを載せてとありました。この間に誰かが気づき声を掛けられなかったのでしょうか? エレベーターに誘導するとか、エスカレーターなら手伝うとか。普段の暮らしはすべてお



車椅子から眺めてみれば

街のおじさんから33

高齢や障害で車いす生活になることは誰にでも起こるかも...でも車いすからは世の中がよく見える。

「高松市の大型家具雑貨店で、81歳の夫が79歳の妻を店で借りた車いすで、車から店内へ連れて行くこうとし、エスカレーターに乗って降り口で前輪が引っかかり、二人とも落下した。中程にいた76歳の女性が巻き込まれ全身強打で死亡した。」

関係者全員が高齢者という悲惨な事故が起こってしまい、「車いすの利便はご遠慮を」との注意書きを無視して、危険なエスカレーターで上がるうとした老々介助の夫を非難する声が多く上がりました。

しかし、この事故で問題なのは「高齢の方への車いす貸し出しで、どうして手助けフォローしなかったのか?」というこ

とです。何を買いたいか、どの階に行くのか? など聞いて案内してあげる配慮を求めることは過重な要求でしょうか?

また付近に危ないと注意してあげたり、手助けする人がいなかったのでしょうか? それに、エレベーターのある所が動線と離れた遠くにあり、エレベーター案内が一目で見えるようになっていなかったのでは?

エレベーターが使いやすい場所があれば、当然そちらを使ったはずですが、無理なエレベーター使用を非難するのではなく、やるべきことが不十分だったことを、問題にするべきだと考えます。(身障者相談員・山名勝)



地域の福祉、みんなで参加

●地域の福祉の充実に、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。共同募金は、10月1日～12月31日の期間ですが、年間を通じて寄付金を受付しています。●大阪府共同募金会事務局は、谷町7丁目交差点を信号1つ西入ルの大阪社会福祉指導センターの2階にあります。どうぞよろしく。●ホームページをぜひご覧下さい。http://www.akaihane-osaka.or.jp

からほり新聞に 広告掲載しませんか?

サイズ 49mm×79mm 3,000円

サイズ 33mm×79mm 3,000円

(2回連続 5,000円)

高齢者外出介助の会 06-6764-4002

